【令和６年度】町民ワークショップ　発表まとめ

開催日時：令和６年10月16日（水）
午後６時～午後８時
開催場所：コミュニティプラザえさし
交流ホール１，２

［参加者］

●テーブルＡ

(株)ぎょうせい	主任研究員	木戸　隆（ファシリテーター）
江差町役場まちづくり推進課	主幹	秋山　悦子（書記）
江差建設協会	会長	田畑　昌伸
認定こども園江差幼稚園	園長	川口　衣澄
江差町スポーツ協会	会長	金子　剛
特別養護老人ホームえさし荘		増川　潮

●テーブルＢ

江差町役場まちづくり推進課	課長	布施　順司（ファシリテーター）
江差町役場まちづくり推進課まちづくり推進係長		中島　崇詞（書記）
北海道檜山振興局地域政策課	課長	山本　勝博
認定こども園 江差幼稚園		田村　美有
北海道江差観光みらい機構		宮崎　拓馬

●オブザーバー

北海道教育大学函館校国際地域学科	准教授	古地　順一郎
公立はこだて未来大学	特命教授	藤野　雄一
北海道放送株式会社函館放送局	函館放送局長	藤澤　正秀
(株)ぎょうせい北海道支社	課長代理	菅野　淑夫

テーブルＡの発表

●仕事関連については、やはり人材不足、高齢化の課題があげられた

●子ども関連については、少子化、単身での転勤が多い、子どもが安心して遊べる場所がない（総合体育館がないため、上ノ国の施設を利用していることや文化センター跡地の有効活用）などの課題があげられた

●その中で、上野町の取り組みが特徴的だったため紹介

～上野町の取り組み～

・上野町の人口は減少傾向にあるが、子どもの数は少しずつ増えてきたため、こども会を発足しようという話になり、現在取り組みを話し合っている

・実施した取り組みは餅つき、次はハロウィンをやろうと計画中
ハロウィンイベント企画の経緯は、ご高齢の方がなかなか家から出てこないため、子どもだけでなく、ご高齢の方も盛り上がる仕掛けを考えたかった

・町内にチラシを配って、賛同してくれるご高齢の方がいたらお菓子を用意してもらい仮装した子どもがその家に立ち寄ることで、上野町全体が元気づくのではないかと考える

●テーブルＡの結論は、子どもを中心にまちづくりを進めていくのが一つのいいコンセプトになると考える

●例えば、「子どもの居場所のあるまち」のようなフレーズを押し出して、子どもの要素を北の江の島構想に絡めながら押し出していくのもいいのではないか

●それにあたっては、地域の活力も必要であり、若い人たちの力が必要になる。

●人口は減少していくかもしれないが、地域の熱をもっている人は必ずいるため、上野町のように、熱をもった勢いが広がっていけばいいと思う

●しかし、取り組みを実施していくためにはお金の問題があり、江差町の経常収支比率は９割ある事から新しいことをするには絶対に外からお金を持ってこなければいけない

●そのため、行政だけに任せるのではなく、勢いのある人たちも交えてみんなで考えていかなければいけないという結論になった

テーブルＢの発表

●どこの分野も当てはまるが、人材担い手不足が課題としてあがっている
その要因は、人口流出で特に若い世代は地元に仕事がない事から卒業を契機に地元を離れてしまう

●また、商業者も高齢化が進み後継者がいないため、廃業していくお店が増えていくことは目に見えている

●子ども関連では、遊ぶ場所がない

●そのため、主観産業である観光業に力をつけていく必要がある
江差町には文化歴史の強いコンテンツもあり、また、将来的には北の江の島構想の拠点施設として屋内遊戯場ができる予定。
●このことから、テーブルＢでは「人材」「観光業」「子どもの遊び場」という３つの視点で話し合いを実施
●人材不足について
・外国人材の受け入れも考えられるが町にマッチするかは読めない
・ICT 技術を活用して、人がいなくてもロボットにやってもらうのも一つ。
ただし、江差町に馴染むかは検討しなければならない
・人材を集めるための土台となるのは移住政策も重要
・地域内の人材確保という視点で、ネクストイノベーション事業で実施している
人材バンクプロジェクト事業（町民の互助活動で人材を補う）も重要と考える
・江差町には雪かきサービスがないと思っていたが、ガソリンスタントで冬場の
雪かきを実施していたり、シニア層や中高生も人材とみることができると考えるため、町内の余剰人材がどれくらいあるのか、どのような活躍ができるのか、という事を整理していくことも重要
●移住定住施策については、移住するためには仕事が必要であり、一番の期待できる部分としては観光業であると考える
●歴史文化、日本遺産のコンテンツは町民が誇りに持っている部分もあることから、観光商品として整理していくことが難しい分野でもある
●一方で町民一人一人が、江差町の歴史文化についてあまり知らない部分もあり、歴史文化の魅力について自然と触れられるような環境づくりも大事ではないか
●また、わざわざ江差町に来てもらうためには、近隣町を含めた広域的な連携が必要
南檜山ブランドが構築できれば、行ってみたいと考える人が増加すると考える
●子育てに関しては
・空き家を活用することで移住を促進
・コミュニティプラザえさしを中心に子どもが集まり学べる仕掛け（木育ワークショップなど）を提供することで、公園はないけど、エコーに行けば、子どもたちがたくさん集っているという環境を作っていかなければいけない
・北の江の島構想の拠点施設での屋内遊戯施設については、子育て世代が集まり、交流を創出するためにどのような空間を構築しなければいけないかをきちんと町に提言していかなければいけない

オブザーバー感想

（藤澤委員）

●非常に熱のある議論がされており、力強さを感じることができた

●ここで議論された話をこのままで終わらせるのではなく、実現の方向に向かえばいいと感じた

（藤野委員）

●学生とワークショップする機会は何回もあったが、学生たちにも負けず活発な意見がが出されており、すごいと感じた

●上野町の取り組みについては、子どもが増えていると発言があり、若い元気な人たちがいろいろ活動しているのは江差町にとってすごくいいことであり、どんどん頑張っていってほしい

（古地副会長）

●有意義な意見交換ができて良かった

●AB 両チームにキーワードとして「子ども」というのがでたが、今日の策定審議会の会場がエコーで実施されたこともあると思うが、こんなにも子ども達が賑わっている場所を見たことがなかった

●発表の中で、子ども達の居場所という話が出たが、町内の子どもの居場所があり、加えて町外から子どもが来たくなる江差というのもいいと思う

●子どもというコンセプトを中心に観光や高齢者の福祉などの分野が繋がってくるのではないかと考える。

●A テーブルで話したハロウィンイベントも、子どもを中心に様々な人が楽しめ、自分たちごととしてできることにもつながりやすいのではないか

●今までこのように発言したことはなかったが、このエコーができて、子どものにぎやかな雰囲気を体感して、まちづくりのコンセプトに子どもを据える事も面白いのではないかと感じた